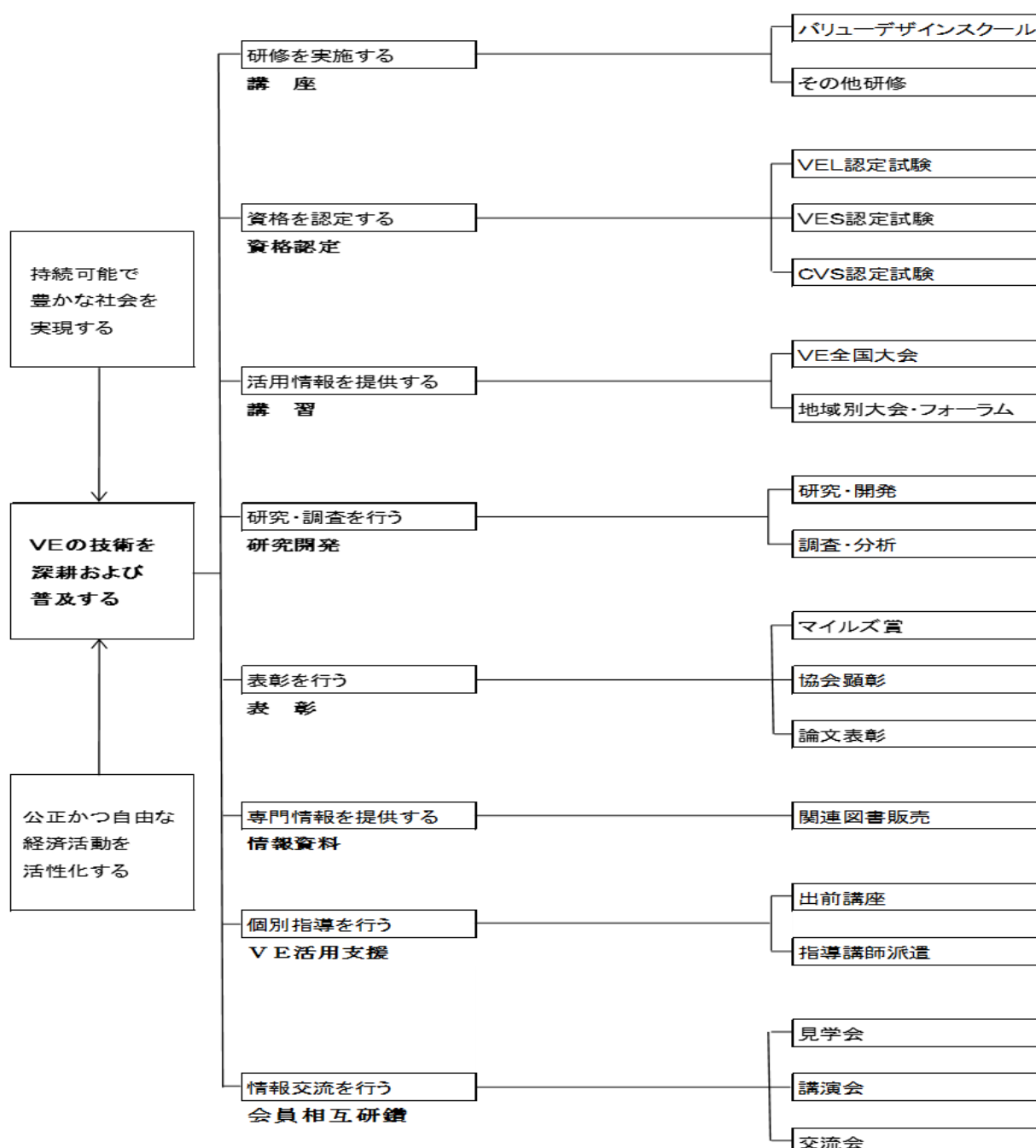


公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会

2022年度 事業計画書

(2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで)

2022年度も引き続き、(1) 持続可能で豊かな社会の実現、(2) 公正かつ自由な経済活動の活性化、(3) VE技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



1. 講座

ここでは、次世代のVEリーダー育成を目的に、基礎知識の講義と活用手順の演習をあらゆる業種・職種の人や学生を対象に行う講座や、実務での活用・実践力を備えたVE専門家の育成を目的に、開発設計VE等の講義・演習をVEリーダー（VEL）有資格者又は上記講座と同等の内容を学んだ人を対象に行う講座等で構成する「バリューデザインスクール」、VEの実践を担える人材の育成を目的に、VEの概要をまず知りたいという人やVEの導入・実践を考えている人に対してその人達が職場で実際に抱えている問題や課題でVEのワークショップを行う「VE塾」等を開催する。

※ 以下講座の講師は、CVS（Certified Value Specialist）又はVEスペシャリスト（VES）の有資格者に委嘱することを原則とする。

1) バリューデザインスクールのオンライン開催

VEL・VES及びCVS認定試験の受験資格要件も満たせる講座や、VES及びCVS更新要件上のポイントにもなる講座等として、次の講座をオンラインで開催する。

講座名	開催日
3時間で学ぶVEの基本	5月17日、10月4日
1日で体験するVEワークショップ	5月24日、10月11日
製品改善ワークショップ	7月4日～5日、12月15日～16日
VEリーダー受験対策1日セミナー	8月19日、11月28日
実行力を高める調達・購買①調達・購買機能の役割とスキル	6月3日
実行力を高める調達・購買②調達・購買活動の要諦と組織能力	6月10日
機能の整理法	6月22日
ファシリテーション入門	7月7日
VEで活用するアイデア発想	7月15日
VEの原点的思考（機能分析中心）	7月21日
企画段階のVE	7月28日
経営者を納得させるVE提案書の書き方	8月2日
VE活動で求められるファシリテーションの実践	8月24日・8月30日・9月6日
開発設計のVE	8月25日～26日
ソフトVEの進め方	9月15日～16日
VEブラッシュアップ講座①基本編	9月27日
VEを組織的に適用するためのマネジメント	10月6日
VEブラッシュアップ講座②短文記述編	10月14日
VEブラッシュアップ講座③論述編	10月21日

2) その他研修会等の開催

(1) 通信講座の開講

① VEの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、VEの基礎を学び、VEL資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

② はじめての企画・開発メソッド ～ 0 Look / 1st Look VE ～

VEの基礎を学んだ人、VEL有資格者等を対象に、企画・開発業務にVEを活用する方法を学ぶ講座を開講する。修了者には、バリュー・デザイナー3級の修了認定証を発行する。

(2) 西日本支部（中四国地区）でのVE塾の開講

VE塾という名称のVEワークショップ・セミナーを広島地区で開講し、その成果を発表会で公表する。

(3) CVSによるVE技術者育成支援

日本国内のCVS有資格者で構成されている「CVSフォーラム」において、VE技術者の育成を支援するための活動やVEに関する実務的研究及び調査・分析を行う。

(4) 経営者フォーラムの開催

経営者層にVE及びその関連領域の情報を提供し、自組織でのVE活用を促進してもらえようとするため、企業の経営者及び経営幹部や学識経験者、コンサルタント等の講演を主な内容とする講演会を、VES及びCVS更新要件上のポイントとなるものとして理事会と同じ日に2回開催する。

(5) 開発設計業務でのVE・原価企画等に関する講座のオンデマンド配信

VES及びCVS更新要件上のポイントとなる講座として、主に開発設計業務でのVE・原価企画等に関する次の6講座をオンデマンド配信する。

講座名	配信期間
開発設計業務でのコストエンジニアリング	10月11日～10月28日
企画、構想段階の機能と品質の決め方	10月11日～10月28日
DFA（Design For Assembly）体験	12月5日～12月23日
Modular Design実践手順と活用ツールの体験	1月10日～1月27日
企画から生産までの原価企画実務上の留意点	2月6日～2月24日
コストテーブル作成・活用の体験	2月6日～2月24日

(6) 公共機関でのVE技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国VE活動推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのVE技術者育成を支援する。

(7) 教育機関におけるVE導入促進と普及

立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科の実習プログラムである、“理論と実践の習得”を目指し、インターンシップを発展させた「プラクティカム」における、主に中国企業での管理技術を活用した課題解決をテーマとした実践的研究に、提携関係のある上海VE協会と協力し、取り組む。

※ 上記のほか、様々な講座を必要に応じて適宜開催する。

2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でVE活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「VEL」資格、責任者・担当者としてVE活動の実施・推進の任に就くVE専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「VES」資格、VEに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「CVS」資格の認定を行う。

1) 資格認定制度の整備・体系化

- (1) 米国VE協会から“改定後のCVS資格認定制度運用”に関する情報を収集し、追加対応が必要な場合は、その方法を検討する。
- (2) 日本におけるCVS資格の主旨や位置づけについて、米国をはじめ各国の動向に鑑み、国際資格に相応しい制度運営をするための検討・準備を行う。

2) 資格認定試験の実施

第52回 VEL 認定試験（前期）	4月18日～7月31日【CBT方式】
第53回 VEL 認定試験（後期）	9月1日～2月28日【 〃 】
第25回 VES 認定試験	12月3日
第43回 CVS 認定試験	11月19日

※ 上記のほか、中国などアジア圏を中心にVEL認定試験を実施し、その他海外での同試験実施に向け、必要な情報発信を行う。

3) VEL有資格者の継続教育

VEL有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

4) 「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

VEL（A登録者）、VES、CVS有資格者のVE技術水準の維持・向上を主目的に、VE活動事例やVEに関する研究成果等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌を編集し、電子版として年4回発行する。

5) 更新登録の実施

VEL、VES、CVS登録者の更新登録（VEL、VESは終身登録を含む）を行う。

3. 講習

ここでは、VE活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、VEに興味がある人やVEL等の有資格者、学生等を対象とした「VE全国大会」、VE関西大会等の「地域VE大会」、「VEフォーラム」を開催する。なお、必要に応じてオンラインで開催することも検討する。

1) 「第55回VE全国大会」の開催

会期	11月上旬～11月下旬を予定
会場	未定(対面とオンラインのハイブリッド型での開催を検討中)

2) 地域VE大会の開催(西日本支部 関西地区、中四国・九州地区)

大会名	開催日	開催地
第54回 VE関西大会	2月	会場とオンラインの同時開催
第65回 西日本VE大会	9月	オンライン開催

3) VEフォーラムのオンライン開催(西日本支部 関西地区)

	開催日
VEフォーラム①	5月
VEフォーラム②	8月

注) 旧・VEセミナー

4. 研究開発

ここでは、SDGsに貢献する手法の構築を目的に、学識経験者及び企業人がVEと不利益を組み合わせた手法の活用に関して研究する等の「開発研究会」、実務で展開するためにVEの導入や水平展開を模索している人がVE推進や実践上の課題等について研究を行うVE推進部会等の「機能別部会」、2時間VE手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のVE入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部建設VE研究会等の「専門研究会」を設置する。

1) 「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

- (1) “現場の生産性向上と技能者のやりがいの両立化を目指すシステムの研究”を行う研究会を設置。SDGsのゴール8「すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する」にある“働きがい”を達成するために活用できる管理技術手法の構築を目指す。
- (2) 米国VE協会が主催するVE国際大会、及びインドVE協会が主催するINVESTVE大会に参加し(両大会とも開催方式は未定)、米国など海外諸国の研究動向についての情報を収集する。

2) 各支部での実務的研究の推進

(1) 機能別部会での研究活動

東日本支部に7つの機能別部会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

① VE情報交流部会	② VE推進部会	③ マーケティング部会	④ R&D部会
⑤ ものづくり部会	⑥ 資材調達部会	⑦ 社会インフラ部会	

(2) 専門研究会での研究活動

東日本支部及び西日本支部（東海地区・関西地区）に専門研究会を設置してVEに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート（VE資料）等で広く公表する。

東日本支部	① VE初心者のためのスキルアップ研究会
西日本支部（東海地区）	① 中部建設VE研究会
西日本支部（関西地区）	① つかいやすいTRIZ研究会 ② 経営革新を生み出す生き生きVE研究会 ③ VEツール研究会 ④ サービス領域でのVE適用方法研究会 ⑤ 原価企画の問題解決研究会 ⑥ 発注部門のためのテアダウン法の適用研究会

3) プロジェクト形式での研究・検討

(1) Sustainable Value Design の研究

「SVD研究会」において、“モノとサービスの結合により社会に好循環を生み出す価値設計”の方法論を構築し、持続可能な社会づくりに広く貢献することを目的に、VEを基軸とした独自のSVD手法を開発して、そのプロセスを投稿論文の形でまとめ、VE誌で発表の予定。

(2) サステナブルVE手法の開発

SDGsに貢献する実務的な課題解決手法として“サステナブルVE”を外部の専門家との協働で開発し、SDGsに取り組んでいる、或いは取り組もうとしている企業や公共機関、学校の担当者などに展開することでVEの普及発展につなげる。

5. 表彰

ここでは、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるVE活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、VE技術水準の向上とVE活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「VE実践論文」の審査及び表彰を行う。

1) 協会顕彰の実施

VEの研究開発や普及促進等で功績を挙げた個人や団体等に、顕彰規程にもとづいて次の各賞を「第55回VE全国大会」で授与する。

- ① 研究開発功績賞
- ② 普及功労賞
- ③ 協会賞（VE経営者賞、VE功労賞、VE国際功労賞、VE特別功績賞、VE学術功績賞、普及功労特別賞、VE活動優秀賞）

2) VE実践論文の審査・表彰

- (1) VE実践論文を「第55回VE全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文の審査を「審査・認定委員会」で行い、その結果入選となったものの表彰を同大会で行う。
- (2) VE実践論文は上記以外でも随時提出を受け付け、査読の上採択となった論文は原則としてVE誌に掲載する。
- (3) VE実践論文でなく、学術的な研究論文の応募があった場合は、一般社団法人日本システムデザイン学会と連携し、査読・発表の機会を上記と別に設けることとする。

6. 情報資料

1) 研究成果の資料化

各支部での実務的研究の成果をVE資料として纏め、公表する。

2) VEテキスト・教材・関連資料等の発行・販売

「第55回VE全国大会」VE研究論文集・資料集、VE普及のための図書等を発行するほか、ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、VELバッジなどVE実施や推進のためのアイテムを販売する。

3) VEテキスト・関連資料等の翻訳・発行

- (1) 講座テキストやVE資料等を英語、中国語等に翻訳し、発行する。
- (2) 特に中国語版については、上海VE協会の協力を得て、VE関連の資料図書も発行する。また、本会が発行しているVE資料、研究資料等の翻訳も進める。

4) VE関連書籍・資料・教材等の販売

VEの学習及び研究、普及促進に資するため、VE関連専門図書を仕入れて販売する。

5) VE研究論文のネット販売

協会Web Site内に開設したVE論文検索・購入サイト「VE論文navi」で電子化した過去のVE研究論文を販売する。

7. VE活用支援

1) 日本国内における出前講座・オンライン講座の実施及び指導講師の派遣

企業・団体等からの要請に応じて出前講座・オンライン講座を実施、又は指導講師を派遣し、VEの個別指導、コンサルティング等を行う。

2) 海外でのVE教育支援

- (1) 海外の人材教育支援の関係団体と連携し、現地の人材育成事業におけるVE関連の指導を積極的に支援する。
- (2) 上海VE協会が開催する中国でのVE研修等を支援する。
- (3) その他アジア諸国（ベトナム、マレーシア、フィリピン、タイ等）を中心に現地の提携先を検討し、VEの活用支援事業を海外に展開する。

3) VEワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定

企業や団体が主催するVEワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がVES認定試験の受験要件であるVE学習経歴を満たせるようにする。

8. 会員相互研鑽

1) 見学会・講演会等の開催

各支部においてオンラインの見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、VEに関する情報交流を行う。

9. 広報活動

1) メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「VE情報メール」を毎月1回発行し、VEや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などPR活動にも積極的に利用する。

2) 協会Web Site等による情報発信

協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、VEや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、ブログやFacebookと連携させることで、発信力の強化を図る。

3) インフラメンテナンス国民会議への参加

国や自治体、企業、研究機関、NPO等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に参加し、情報を収集するとともにVE関連情報の発信を図る。

4) 他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合い、またPRに協力、参加費の割引を行う等して、VEの普及促進を図る。

5) アジア圏を中心とした海外向け情報発信の拡充

- (1) オンライン化により海外でのVE教育、実践指導、資格認定の可能性も広がったことから、協会 Web Site や情報・資料、動画セミナー等のコンテンツを英訳・中国語訳し、積極的に発信する。
- (2) 米国VE協会アジア地域担当マネージャーと協力してアジア諸国のVE関係者との連携強化を図り、VE普及促進の図るための協力体制を築く。

10. 会 議

1) 定時総会の開催

第12期 定時総会	6月17日
-----------	-------

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

2) 理事会の開催

第38回	第39回	第40回	第41回
5月17日	6月17日	(未定)	(未定)

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、“決議の省略”という方法（書面表決）に切り替えて議案の決議を行う。

3) 「本部企画委員会」の開催

各支部の支部長、各委員会の委員長、事務局長で構成し、年度計画の調整や事業推進における意思疎通を図るための会議を年度内に1回開催する。

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、開催方法は“オンライン”へと切り替える。

以上